

今週のテーマ

1. 一週間のまとめ
 - (1) 与党陣営の動き
～マドゥロ大統領 国会にて就任宣誓～
..... 1p
 - (2) 野党陣営の動き
～ゴンサレス候補 ベネ入国できず～
..... 3p
 - (3) 外国の動き
～欧米・カナダ 個人制裁を科す～
..... 4p
 - (4) 今週、来週の主なイベント
..... 5p
 - (5) 債券の元利不払い状況
..... 6p
2. MCM 氏 拘束と解放に関する考察
..... 7p

債券指標の動き

3. ベネズエラ債券・経済指標の増減
..... 15p

カントリーリスク分析



(写真) マドゥロ大統領 Telegram

“マドゥロ大統領 国会にて3期目の大統領就任宣誓を実施”

一週間のまとめ (2025年1月5日～1月11日)

- (1) 与党陣営の動き ～マドゥロ大統領 国会にて就任宣誓～

1月10日 マドゥロ大統領は、与党国会にて大統領就任宣誓式を行った。

マドゥロ大統領は「大統領就任宣誓式には125カ国からの参列があった」と発表しているが、外国政府の関係者に絞るとかなり少なくなるだろう。

国会前で抗議行動を行った形跡は無く、就任式自体は軍部の厳しい監視もあり、大きな騒動なく終了したようだ。

POINT

就任宣誓式の後には軍事パレードにも参加しており、「軍部はマドゥロ大統領をベネズエラの大統領と認識している」とのアピールをしている。

マドゥロ大統領 大統領就任宣誓式を実施。

3期目の任期は2031年まで。



(写真) マドゥロ大統領 Telegram “マドゥロ大統領への恭順を示す軍大将”

POINT

ゴンサレス候補 ベネ
ズエラに入国できず。

同日に大統領就任を宣
誓しなかったが、引き
続きベネズエラ入国と
大統領就任を模索。

現状が長引くと、求心
力が落ち、マドゥロ政
権の実効支配が定着す
る恐れ。

(2) 野党陣営の動き ～ゴンサレス候補 ベネ入国できず～

1月10日にマドゥロ大統領が大統領就任を宣誓することはほぼ決まっていた。国内外の真の関心は、「1月10日にゴンサレス候補がベネズエラに入国し、大統領就任を宣誓できるかどうか」だっただろう。

結論から言うと、ゴンサレス候補はベネズエラに入国できず、大統領就任も宣誓しなかった。ただし、「引き続きベネズエラへの入国と大統領就任の手段を模索する」としており、大統領就任のための試みは今後も継続するとの意思を示した。

従って、ゴンサレス候補のベネズエラ入国・大統領就任の試みは終わっていないが、1月10日にゴンサレス候補が入国できず、大統領就任を宣誓できなかった意味は大きい。

多くの野党支持者が2025年1月10日に何か起きる可能性を期待していたが、結果的に何も起きなかった。今回の出来事は、野党支持者に大きな失望感を与えたことだろう。また、野党に鞍替えする可能性があった与党関係者や軍人も今回の一件を受けて、離反の意欲が減るだろう。

このまま時間が経過すれば、マドゥロ政権の実行支配が定着する。

野党支持者のフラストレーションは限界に達し、国内ではMCM氏・ゴンサレス候補への批判も増えるだろう。そして、MCM氏・ゴンサレス候補の求心力の低下は野党の分裂を促進することになる。

MCM氏は、この状況を早急に打開する必要があるが、現時点で次のターニングポイントや打開策が見えないのが正直なところだ。

POINT

(3) 外国の動き ～欧米・カナダ 個人制裁を科す～

1月10日のマドゥロ大統領の就任宣誓について、欧米を中心にマドゥロ政権を批判する声が多い。

1月10日 米国・欧州連合・英国・カナダは、マドゥロ政権の政府関係者に対して個人制裁を科した。

米国・EU・英国・カナ
ダ マドゥロ政権関係
者に個人制裁。

日本含むG7およびEU連合も共同で声明を発表。

「マドゥロ大統領の就任宣誓には民主的な正当性がない」

「マドゥロが継続的かつ抑圧的に権力を掌握していることを拒否する」

との見解を示した（詳細は外務省「[ベネズエラに関する G7 外相声明](#)」参照）。

また、日本政府は個別で外務報道官談話を公表。以下の見解を表明した。

日本政府は、「説明責任
を果たさない状態での
大統領就任に遺憾」。

“昨年7月28日にベネズエラで実施された大統領選挙は、国内外から、票の集計を含む選挙プロセスの透明性に疑義が呈されてきました。我が国は、投票した全ベネズエラ国民の意思が尊重されるよう、投票結果の信頼性を裏付ける上で必要な全ての情報が公表され、大統領選挙プロセスの透明性が確保されることを求めてきました。これに対し、ベネズエラ政府が十分な説明責任を果たさないまま、今般、大統領就任式が実施されたことは遺憾です。

ゴンサレス候補の大統
領認識については言及
せず。

我が国は、与野党間の対話の実施など、ベネズエラにおける全ての関係者の広範な参加を得て、諸問題が解決され、一刻も早く民主主義が平和裏に回復されることを強く求めます。また、我が国は、現下のベネズエラの経済・社会状況の悪化により、特に脆弱な状況にあるベネズエラ国民に深刻な影響が及んでいること、及び、避難民の流出等により、周辺国を含め地域規模で影響が及んでいることを懸念しています。

我が国は、人間の安全保障理念に基づき、避難民を含むベネズエラ国民への民生支援に加え、影響を受けている周辺国に対しても支援を継続してまいります”

日本政府は「ゴンサレス候補をベネズエラの大統領と認識する」とまでは踏み込んでおらず、マドゥロ政権との決定的な対立は避けている印象だ。

（４）今週、来週の主なイベント

1月5日 与党国会は、2025年の国会3役（議長・第1副議長・第2副議長）を決定した。

2025年の国会議長は、ホルヘ・ロドリゲス議員が続投。

第1副議長は、ペドロ・インファンテ議員が続投。第2副議長は、アメリカ・ペレス議員が続投。

つまり、国会3役は2024年と変わっていない。

他方、野党国会は2025年の国会3役を発表していない。1月10日の大統領就任宣誓日に注力するためだったのか、野党内で3役の合意が形成できていないからなのかは不明である。

表： 1月5日～1月11日に起きた主なイベント

日付		内容
1月	5日 日	国会 2025年の国会議長・第1副議長、第2副議長を決定
	6日 月	ゴンサレス候補 米国でバイデン大統領と会談
	7日 火	マドゥロ政権 ゴンサレス候補の娘婿を拘束
	8日 水	
	9日 木	MCM氏 抗議行動に参加、警察に拘束されるも解放？
	10日 金	ベネズエラ 大統領任期開始日
		マドゥロ大統領 大統領就任宣誓を実施
		ゴンサレス候補 ベネズエラに入国できず、大統領就任宣誓を延期
		欧米・英国・カナダ マドゥロ政権関係者に個人制裁
	11日 土	日本政府 ベネズエラ情勢について外務報道官談話を公表

表： 1月12日～1月19日に予定されている主なイベント

日付		内容
1月	12日 日	
	13日 月	
	14日 火	
	15日 水	
	16日 木	
	17日 金	
	18日 土	
	19日 日	

(5) 債券の元利不払い状況

表：ベネズエラ債券の債務不履行額（1月10日時点）

（単位：100万ドル）

種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
国債	国債19	19年10月13日	7.75%	4/13 10/13	2,495	1,450.2	3,945.2
	国債24	24年10月13日	8.25%	4/13 10/13	2,495	1,543.8	4,038.8
	国債25	25年4月21日	7.65%	4/21 10/21	1,600	979.2	2,579.2
	国債26	26年10月21日	11.75%	4/21 10/21	3,000	2,291.3	5,291.3
	国債23	23年7月5日	9.00%	1/5 7/5	2,000	1,440.0	3,440.0
	国債28	28年5月7日	9.25%	5/7 11/7	2,000	1,387.5	3,387.5
	国債18	18年12月1日	7.00%	6/1 12/1	1,000	560.0	1,560.0
	国債20	20年12月9日	6.00%	6/9 12/9	1,500	675.0	2,175.0
	国債34	34年1月13日	9.38%	1/31 7/13	1,500	984.4	2,484.4
	国債31	31年8月5日	11.95%	2/5 8/5	4,200	3,513.3	7,713.3
	国債18	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	300	286.1	586.1
	国債18F	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	752	717.2	1,469.2
	国債22	22年8月23日	12.75%	2/23 8/23	3,000	2,677.5	5,677.5
	国債27	27年9月15日	9.25%	3/15 9/15	4,000	2,590.0	6,590.0
	国債38	38年3月31日	7.00%	3/31 9/31	1,250	612.5	1,862.5
グレースピリオド満了未払					31,092	21,708.0	52,800.0
種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
PDVSA債	PDVSA26	26年11月15日	6.00%	5/15 11/15	4,500	2,025	6,525.0
	PDVSA24	24年5月16日	6.00%	5/16 11/16	5,000	2,250	7,250.0
	PDVSA21	21年11月17日	9.00%	5/17 11/17	2,394	1,616	4,010.0
	PDVSA35	35年5月17日	9.75%	5/17 11/17	3,000	2,194	5,193.8
	PDVSA220	22年2月17日	12.75%	2/17 8/17	3,000	2,869	5,868.8
	PDVSA27	27年4月12日	5.38%	4/12 10/12	3,000	1,209	4,209.4
	PDVSA37	37年4月12日	9.75%	4/12 10/12	1,500	1,097	2,596.9
	PDVSA22	22年10月28日	6.00%	4/28 10/28	3,000	1,440	4,440.0
	PDVSA20	20年10月27日	8.50%	4/27 10/27	1,684	1,145	2,828.8
グレースピリオド満了未払					27,078	15,844.7	42,922.5
電力債18	18年4月10日	8.50%	4/10 10/10	650.0	386.8	1,036.8	
グレースピリオド満了未払					650.0	386.8	1,036.8
合計					58,820	37,939	96,759

(出所) Av Security よりベネインベストメント作成

POINT

2. MCM 氏 拘束と解放に関する考察

今回の大統領就任宣誓式に関連して最も注目を集めたのは、1月9日に起きた「マドゥロ政権による MCM 氏の一時的な拘束と解放」だろう。

MCM 氏が抗議行動の集会場所チャカオ市の「Calle Elice」に姿を現したのは、1月9日午後2時過ぎ。そして、正確な時間は分からないが午後3時過ぎに演説を終えている。

1月9日 午後2時

MCM 氏 集会場に登
場

そして午後3時21分に MCM 氏の選挙キャンペーン公式アカウント「Comando ConVzla」にて、
「MCM 氏は集会場から出る際に暴力的に捕らえられた」
「近いうちに状況を確認できることを望んでいる」
「マドゥロ政権の部隊はバイクに向かって発砲した」と投稿(下投稿ツイート)。この投稿は瞬時に世界中に拡散され、マドゥロ政権は国内外から強い批判を受けた。

午後3時頃 集会場を
出発。

なお、下ツイートの投稿時間は1月10日(土)午前4時21分と表示されているが、これは日本時間。

日本とベネズエラは13時間の時差(日本が13時間早い)があるため、この投稿はベネズエラ時間で1月9日(金曜)午後3時21分に投稿されたもの。

午後3時21分

MCM 氏の拘束が発表
される。



(写真) @ConVzlaComando

POINT

午後4時27分

TELESUR が MCM 氏の無事を証明する映像を公開。

午後5時2分

野党陣営 MCM 氏が解放されたと発表。

そして、この投稿から約1時間半が経過した午後5時2分に Comando ConVzla は

「本日、1月9日に MCM 氏がチャカオの集会から去る際に、バイクを倒され、彼女が捕らえられた」「この事件で発砲があり、彼女は強制的に連行された」「彼女は誘拐されている間、いくつかのビデオを撮影され、解放された」「数時間後に彼女は国に対して、自身の身に起きたことを説明するだろう」投稿し、MCM 氏が解放されたことが明らかになった。



なお、この発表の30分ほど前の午後4時27分に「TELESUR（国際メディアだが、実質的に与党メディア）」が MCM 氏自身が自分が無事であることを説明するビデオメッセージを公開していた。このビデオメッセージでは、自身が拘束されたことについて言及しておらず、「(治安部隊に) 追われて、私の青いバックを落とした」とだけ述べている。



POINT

翌1月10日午後5時

MCM氏、前日の顛末を説明。

「警察は私を暴力的に拘束した」「拘束を試みる際に発砲された」「収容所に連れていかれそうになったが途中で解放され、撮影を要求された」「同伴していたバイク乗りが足を負傷、刑務所に送られた」と述べた。

最終的に今回の拘束について MCM 氏が説明を行ったのは、翌1月10日午後5時。彼女によると

「私がバイクに乗車し、集会場を去る際に、2、3台のバイクが私に同伴した」「移動中に銃器を所持した国家警察が我々を引き止めようとした」「しかし、その後も我々は移動を続け、背後から何度か銃声が聞こえた」「バイクに乗った国家警察は私を拘束し、彼らは私の名前を確認した」「その後、私は突然バイクから引きずり降ろされ、別のバイクに乗せられた、私は2人の警察官に挟まれた」「バイクで移動中に何度か Boreita（収容所）に連行するとの声を聞いた」「その近くに来た時に突然バイクは止まり、“ここから去れ”と伝えられ、生存を証明するためのビデオを撮影するように要求された」「この場所から離れ、自身の安全を確保するために数時間を要した」「その際に、私が集会から出る際に同伴していたバイク乗りの人物が警察が発砲した銃で足を負傷した姿を目撃した」「彼は刑務所に送られた」「痛みはあるが私は元気だ」と説明した。

以上が野党側から見た今回の拘束と解放の顛末である。



(写真) @MaríaCorinaYA

POINT

与党関係者は、MCM 氏**拘束の情報を否定。****カベジヨ内務司法相****「MCM 氏を乗せたバイクをスピード違反で引き留めた」と説明。****「警察は MCM 氏を拘束したのではなく、安全を守った」と主張。**

一方、マドゥロ政権側は野党の主張を否定。

カベジヨ内務司法相、ロドリゲス副大統領、ヒル外相、検察庁は、「MCM 氏が拘束されたとの情報は、当日の抗議行動の動員が少なかったことを隠し、マドゥロ大統領の就任宣誓式を汚すためのフェイクニュース」と反論した。

そして、1月9日午後10時に、カベジヨ内務司法相は、自身の番組「Con El Mazo Dando」特別号を放送。

番組で当時の状況を知る人物からの報告を読み上げた。

この報告によると、

「MCM 氏を乗せたバイクがスピードを出し過ぎて、アルタミラジャンクションの辺りで不安定になり、国家警察が彼女を乗せたバイクを引き留めた」「警察は彼女の身の安全を確保するために引き留めたが、誘拐されたことにした」「彼女は身体的に完ぺきな状態で、ソーシャルメディアで拡散されているように拘束されていないし、発砲も受けていない」と説明している。

また、MCM 氏が解放された後に撮影した動画について

「実際のところ、あの動画を撮影することを提案したのは彼女自身だ」「あのビデオを拡散することで、自身を被害者にすることが出来ると考えたが、逆効果だった」「現在 Magalli Meda（MCM 氏の右腕と言われる広報担当員）は、一連の失敗を正当化するために説明を捏造している」と補足した。

後述するが、警察官がバイクに乗った MCM 氏を職務質問している写真は存在する。従って、一時的であるにせよ MCM 氏が警察に引き留められたのは野党・与党も認めており、写真という証拠もあるため事実と考えるべきだろう。

両者の意見が相違しているのは

「MCM 氏が拘束されたのか、拘束されていないか」

「逃走中に背後から発砲を受けたのか、発砲を受けていないのか」

「同伴したバイク運転手が足を負傷した状態で、刑務所に連行されたのか、連行されていないのか」

の3点である。

POINT

1. MCM 氏が拘束されたのか、拘束されていないか

下写真は、MCM 氏が国家警察に止められ、職務質問を受けている様子。

1点目の争点は、「この後に MCM 氏が主張するよう強引に警察のバイクに乗せられ、（恐らく Boreita 収容所へ）連行されそうになったかどうか」である。

この争点については、現在確認できている情報では、どちらが正しいかを判断することは出来ない。

ただし、仮に MCM 氏が強引に連行されそうになったとして、その様子を治める写真や動画が存在しないのは不思議だ。MCM 氏の周りには常に複数の取り巻きがおり、何か問題が起きれば彼らが写真や動画を撮影し拡散するはずだ。彼女の取り巻きが撮影できないとしても、一般人が撮影し、拡散されるだろう。MCM 氏を乗せて警察が公道を数十分走っていたとして、その動画がないのは違和感がある。

MCM 氏は拘束され、警

察に連行されたのか？

MCM 氏が連行された

可能性はある。

ただし、連行されたこ

とを証明できるような

写真や動画が確認でき

ておらず、連行されて

いない可能性もある。



POINT

発砲された可能性はあるが、こちらが発砲当時の写真や動画が確認できず、発砲されていない可能性も否定できない。

発砲され、足を負傷したバイク乗りは Roalmi Cabeza 氏。

2. 逃走中に背後から発砲を受けたのか、発砲を受けていないのか

本件についても、どちらの主張も立証するような証拠がなく、発砲の事実があったのか、発砲の事実がなかったのかは断言できない。

現時点で言えることは「発砲に関する報道が確認できない」という点である。

筆者がメディアを見た限り、現在のところ「銃声を聞いた」という一般人の証言や「警察官が発砲している映像」は確認できない。

拘束されたとされるアルタミラ・ジャンクションは交通量の多い場所で、発砲など騒動があれば誰かは気付くだろう。また、混乱する現場の様子がソーシャルメディアで拡散されそうだが、そのような動画や写真は確認できていない。

今後、そういった写真や動画が出てくる可能性はあるが、現時点では「発砲があった」という野党側の主張を裏付ける根拠が乏しい印象を受ける。

3. MCM 氏に同伴し、負傷したバイク運転手について

野党側は、「MCM 氏は逃走中に背後から発砲を受けた」と主張している。

MCM 氏は「移動中に銃器を所持した国家警察が我々を引き止めようとした」「しかし、その後も我々は移動を続け、背後から何度か銃声が聞こえた」「私が集会から出る際に同伴していたバイク乗りの人物が、警察が発砲した銃で足を負傷した姿を目撃した」「彼は刑務所に送られた」と述べている。

そして、1月11日 人権活動家 Tamara Suju 氏は、警察の発砲を受けて負傷し、刑務所に連行されたのは Roalmi Cabeza という人物であることを明らかにした。報道によると、Cabeza 氏は赤色のシャツを着ていた運転手のようだ（次ページ写真の男性）。

写真を見る限り、この時点で彼が足を負傷しているようには見えないので、この職務質問後に逃走が起き、背後から発砲を受けて、足を負傷したということになるだろう。彼が発砲を受けたことが確認できれば、MCM 氏の主張に信憑性が増す。

POINT

MCM 氏は何らかの理由でバイクの運転手を黒いジャケットの男性から赤いシャツの男性（恐らく Cabeza 氏）に代えている様子。



（写真） La Noticia De Hoy

現在のところ、MCM 氏の拘束と解放に関連する写真は少ない。確認できた写真は、MCM 氏が集会場を後にする際の写真2枚（下）と、MCM 氏が国家警察から職務質問を受けている写真（上）である。

以下は MCM 氏が集会場を後にする際の写真。

この時、MCM 氏は黒いジャケットを羽織った男性が運転するバイクに乗車している。なお、MCM 氏が落としたという「青色のカバン」も写っている。



POINT

「警察からの逃走中に
背後から発砲を受け
て、運転手が負傷した」
という説明に多少の違
和感がある。

野党は自身の主張を裏
付ける証拠を提示する
必要があるだろう。

写真を見る限り、バイク自体は最初に登場したバイクと同じ KAWASAKI 製のバイク「KLR 650」である。しかし、バイクを運転している男性が、赤色のシャツと帽子をかぶった人物に代わっており、警察の職務質問を受ける前に何らかの理由で運転手が代わったことが分かる。

そして、1人目の運転手がどこに行ったのか、どうして運転を変わる必要があったのかは不明。仮に1人目の人物が Cabeza 氏であれば、警察から発砲を受けて足を負傷したため、赤いシャツの人物に運転手が代わったと理解できるが、報道を見る限り、そうではないようだ。

また、MCM 氏を乗せて逃走している際に被弾したとすると不思議な点もある。

MCM 氏の説明の通り「背後から発砲を受けた」とすると、MCM の前に乗っている運転手の足に被弾するというのは不自然だ。横から撃たれたのであれば理解できるが、MCM 氏は「背後から発砲を受けた」と言っているので、MCM 氏を超えて被弾したことになる。

また、運転中に足に被弾したとすれば、普通バイクは横転する。MCM 氏も転倒に巻き込まれているはずだが、「青いカバンを落とした」と証言した MCM 氏の服に転んだような形跡はなく、MCM 氏はバイクの転倒に巻き込まれていないように見える。Cabeza 氏が被弾した状況について、もう少し説明が欲しいところである。

なお、Suju 氏曰く、Cabeza 氏は負傷後に適切な処置を受けていないとのこと、今後の彼の状況は拘束事件の真相を解明する上で重要になるだろう。

また、MCM 氏の説明が事実だったとして「MCM 氏は、暴力的に拘束され、運転手が足を撃たれて刑務所に送られたが、証言ビデオの撮影を警察から要求され、その要求通りに証言をした」ということになる。個人的には、MCM 氏がこのような理不尽な要求を素直に受けるのには違和感を覚える。

現時点で確認できる情報だけでは、どちらが嘘を付いていると断言できるような状況にはない。

しかし、野党側の説明にはいくつか違和感がある。野党は信憑性を高めるために、もう少し主張を裏付けるような証拠を提示する必要があるだろう。

3. ベネズエラ債券・経済指標の増減（1月10日時点）

銘柄	利率	満期	BID	ASK	平均	先週比
2018-I	13.625	2018/8/15	15.5	19	17.25	7.81
2018-II	13.625	2018/8/15	16.45	17.65	17.05	0.00
2018	7	2018/12/1	11.8	12.95	12.38	1.02
2019	7.75	2019/10/13	12.7	14	13.35	△ 2.02
2020	6	2020/12/9	11.9	13.25	12.58	0.40
2022	12.75	2022/8/23	15.95	17.3	16.63	1.06
2023	9	2023/7/5	14.5	15.7	15.10	1.85
2024	8.25	2024/10/13	14.05	15.4	14.73	0.34
2025	7.65	2025/4/21	14	15.2	14.60	1.74
2026	11.75	2026/10/21	16.65	17.75	17.20	1.18
2027	9.25	2027/9/15	16.45	17.65	17.05	1.79
2028	9.25	2028/5/7	14.75	16	15.38	0.99
2031	11.95	2031/8/5	16.15	17.45	16.80	0.90
2034	9.375	2034/1/13	16.65	17.9	17.28	2.37
2038	7	2038/3/31	13.8	15.05	14.43	1.23
電力債 2018	8.5	2018/4/10	5.75	7.75	6.75	0.00

	利率 %	満期	BID	ASK	平均	先週比
2020	8.5	2020/10/27	88.5	90.35	89.43	1.39
2021	9	2021/11/17	10.15	11.65	10.90	△ 4.39
P 2022	12.75	2022/2/17	11.95	13.1	12.53	2.66
D 2022(N)	6	2022/10/28	9.05	10.3	9.68	0.00
V 2024	6	2024/5/16	10.9	12.05	11.48	2.68
S 2026	6	2026/11/15	10.9	12.05	11.48	1.77
A 2027	5.375	2027/4/12	10.95	12.15	11.55	4.52
2035	9.75	2035/5/17	12.05	13.3	12.68	4.11
2037	5.5	2037/4/12	10.65	12	11.33	2.72

	百万ドル	先週比
外貨準備	10,292	0.41

為替レート	ボリ/ドル	先週比
両替テーブル	53.88	1.64
並行レート	68.23	1.71

（出所）Avsecurity、ベネズエラ中央銀行、Dolarparalelo_Oficial

解説

先週に続き、今週もベネズエラ公社債（国債・PDVSA社債）は全体的にプラスに推移した。

週の前半で債券価格は上昇。しかし、利益確定の売りが増えたためか週後半は下落傾向が続いた。

「[1.（1）与党陣営の動き](#)」

「[1.（2）野党陣営の動き](#)」

の通り、マドゥロ大統領は大統領就任宣誓式を実施。

ゴンサレス候補は、ベネズエラに入国できず、同日の就任宣誓を行うことは叶わなかった。

債券市場にとっては、マイナス材料になると思われる。

以上